

平成31年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される伝統ある進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割以下)

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次世代の社会を担う女性を育成する。 2 SSHの成果や国際交流事業などの取組を活かし、教育課程研究事業の推進により質の高い授業を行い、学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成するとともに、積極的に地域に貢献し信頼される学校づくりを行う。
------	---

出席者	
学校関係者	9名
生徒	3名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価 (1月31日現在)		
評価項目	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
1	全体的に生徒は、学習、部活動、学校行事、委員会・生徒会活動等に意欲的に取り組む姿勢がある。 学校の諸活動や、地域との連携における貢献活動等により、高い志や使命感を育成し、次世代のリーダーとしての素養を高める必要がある。	次世代のリーダーとしての素養向上	①学校行事、委員会・生徒会活動、部活動の推進 ・文化祭、体育祭等の行事に携わる委員会 ・教養、風紀等に関する各種委員会 ・部活動をととした志の育成、リーダーとしての素養の育成 ②地域との連携 ・小中学校への学習支援 ・部活動における小中学校との連携 ・部活動や委員会等による地域への貢献 ・保育・福祉施設等でのボランティア ③国際交流の推進 ・ニュージーランド姉妹校への生徒派遣 ・グローバルリーダー育成事業等への派遣	①生徒が主体的に取り組み、学校行事や委員会活動・部活動を運営できたか。 ・リーダーの素地を育成できたか。 関東大会以上の大会等に10以上の部活動が出場・出品できたか。 ②連携事業により幅広く地域に貢献できたか。 生徒の社会性を育めたか。 生徒がリーダーシップを発揮できたか。 ③国際交流事業に参加した生徒のグローバル意識が高まったか。 報告会を実施し、全校生徒の意識変容が見られたか。	高い志の育成、次世代のリーダーとしての素養を高める取組を年間として、実施した。 ①学校行事、委員会・生徒会活動、部活動の推進 ・文化祭や体育祭等の運営をととして、文化委員や体育委員等のリーダーとしての素養を高めた。 ・部活動 関東大会以上 8(全国4) 国際大会代表2名 ②生徒の地域貢献、連携意識・ボランティア意識の向上 ・小中学習教室協力 小学校のべ83名、中学校のべ38名 ・部活動小中学校連携 水泳教室指導、熊女カップ等 ・くまじょサイエンス教室の開催 小学生123名の参加 ・保育・福祉施設ボランティア 30施設212名 ・美術部 17号歩道橋絵画設置 ・書道部ラグビーWCUPファンゾーンイベント参加 ③国際交流の推進 ・グローバルリーダー育成事業に1名、オーストラリア科学奨学生に1名、NZ海外研修(14日間)に20名を派遣等、全校報告会で成果を全生徒で共有	A	・学校行事、委員会生徒会活動等をととして主体性や積極性を養い、リーダーとしての素養をさらに高める。 ・高い評価を得ている地域連携事業やボランティア活動を引き続き継続し、生徒の志を育成する。 ・ニュージーランド姉妹校交流派遣等、グローバルな思考を育成し、リーダーとしての視野を広げる。
2	これまで国や県の事業(S・S・H、骨太リーダー育成等)を活用し、質の高い授業を実践する基盤を築いてきた。 これらの事業が終了となった今後は、その成果を引き継ぎ、新規事業である教育課程研究事業(大学進学指導拠点校)の取組をととして、学校を活性化し、これからの時代に求められる思考力・判断力・表現力等の向上に向けた授業改善を行う必要がある。	授業改善の推進	①新学習指導要領に対応した授業改善への継続的研究 ・研修会開催と参加、公開授業週間の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ②教育課程研究事業 ・進路指導拠点校間での連携による研究 ・新学習指導要領での教育課程の検討 ③探究の深化の推進 ・総合的な探究の時間の充実と内容の深化 ・探究活動の授業等をととした思考力・判断力・表現力等の育成	①外部の教員研修、先進校視察等に参加し、研修会を行い、校内における授業の工夫・改善ができたか。 ICT機器の活用は図れたか。 ②新教育課程の研究、編成は進んだか。 教員の意識向上が図れたか。 ③効果的な生徒の探究成果発表を実施することができたか。 生徒が主体的・対話的で深い学びを実践しているか。	新学習指導要領に対応する授業改善を進めている。 ①授業改善の研究 ・熊女の将来を考える研修会の実施(2回)し意識共有。 ・未来学びシンポジウム5名参加。 ・先進校視察(3校)、予備校の教員研修も参加。 ・教員相互の授業見学期間3回実施(昨年より1回増)。 ・教室用プロジェクター・タブレットの活用。 様々な取組により、授業の工夫・改善を行った。 ②教育課程研究事業の活用 ・拠点校間連携により、教育課程の検討を進めた。現在新教育課程を作成中である。 ③探究の深化 ・総合的な探究の時間(1年)探究成果発表会(1/27)の実施。 ・人文科学探究公開授業の定着実施(2/10)。 ・お茶の水女子大学等との連携で生徒の探究活動の推進 ・思考力・判断力・表現力の育成を推進した。	B	・思考力・判断力・表現力の向上に向けた授業改善に引き続き取り組む。 ・新学習指導要領に対応する教育課程の編成が急務である。 ・年次進行する総合的な探究の時間や人文科学探究、新教育課程での探究科目の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。
3	きめ細かな指導により、大学進学実績において、難関大学等、多くの合格者を輩出している。 今後も生徒一人一人の第一志望の実現に向けて、高大接続改革に対応した進路指導、学習指導の方法の工夫改善を行う必要がある。	進路指導の充実と進学実績の向上	①きめ細かな進路指導 ・一人一人に寄り添う進路相談の実施 ・長期休業と平日に実施する多彩な補習 ②高大接続改革等への対応策の検討 ③進路指導に係る最新の情報収集及び情報共有	①進路選択(文理選択等)につながる講演会を実施できたか。 第1志望の進路実現 50%以上 現役合格目標:国公立大学60名 早慶上理ICUとG-MARCH計100名 ②大学入試改革等への対応策の検討は進んだか。 ③高大接続改革研修会等に参加し情報共有し指導に活かされたか。	第一志望の進路実現に向けて生徒は進路研究を進め、主体的に取り組むことができています。 ①きめ細かな進路指導 ・文理選択講演会、キャリア教育講演会、保護者対象講演会、四者面談参加等、様々な場面で進路意識を育成。 ・年間計画での面談、生徒の実情に応じた臨時個人面談(全学年)の実施。 ・お茶の水女子大公募入試合格、国公立大推薦入試合格大幅増18名(昨年同時期11) (合格実績3月末集計) ②高大接続改革の大学入試改革への対応 ・GTECの実施や思考力を求める問題対策等を進めた。 ③大学入試研修会職員参加状況 ・30以上の外部受験研究会に参加し、情報を共有。	A	・生徒一人一人の主体的な取組を支援し、第一志望を実現させる。 ・卒業生は、にこやか・健やかで、明確なビジョンを持っていて素晴らしい。 ・将来どんな職業に就きたいのか、キャリア教育のベースがあって、理系文系の選択につながる。発達段階に応じた指導が大切である。 ・活躍する卒業生の講演会等の機会を増やして、進路指導に役立てて欲しい。
4	生徒は自らを律し行動できる。 品格ある生徒の育成を継続させていくとともに、個々の生徒に寄り添うきめ細かな支援も必要となっている。 県北地域の少子化の影響による生徒募集も課題となりつつある。 地域の伝統ある女子校としての魅力を発信するなど、広報活動を一層充実させる必要がある。	生徒指導の充実	①組織的な整容指導と挨拶励行指導 ②教育相談の充実 ・一人一人に寄り添う教育相談の実施 ・専門機関と連携したきめ細かな個別指導	①全教職員、PTAの協力による組織的な指導ができたか。 ②校内支援委員会を中心に個別の生徒の課題解決に向けた支援ができたか。	学校全体の共通理解のもとに個別の生徒支援を年間として行った。 ①身だしなみ指導、生活委員会及びPTAによる挨拶運動を計画的かつ組織的に実施した。 ②担任、学年、養護教諭など関係者の円滑な連携を維持し、教育相談を充実させ生徒を支援した。	A	・身だしなみ指導・挨拶運動を継続し、品格ある熊女生を育成する。 ・組織的な個別の支援を継続する。
		広報活動の工夫改善	①地域・中学生に本校の魅力の発信 ・学校説明会や学校見学会の開催 ・中学校や塾等主催の説明会へ積極的に参加 ②学校ホームページを活用した情報発信	①本校の魅力を十分発信し、入試倍率に反映できたか。 ②学校ホームページへのアクセス数が昨年以上に増えたか。(10%増)	広報活動を工夫し、本校の魅力を積極的に発信した。 ①本校の魅力の発信 ・学校説明会・見学会で生徒の体験報告は、参加中学生アンケートで高評価を得た。部活動体験・見学会も開催。 ・本校進学希望(12/15調査)は1.22倍。昨年比+0.14P。 ②学校ホームページのアクセス数が、1日平均約2,800件で昨年比2.3倍となった。(昨年:1日平均約1,200件)	A	・熊女の良さ等、アピールポイントを共有してさらに情報発信していく。 ・今後もホームページの更新を効果的に行う。

実施日	令和2年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・小中高連携において、高校生の協力に感謝している。高校生が行う大きな声の挨拶は模範になっている。 ・新たに始めた連携も含めて、地域貢献のため是非続けて欲しい。 ・生徒が学校周辺の掃除を行い地域としても助かっている。公共の場所をきれいにする取組は今後も続けて欲しい。 ・学習・部活動・学校行事に頑張る姿勢が浸透している。体育祭等の学校行事で生徒が自主的に活動して素晴らしい。今後も生徒の主体性を育成して欲しい。 ・新学習指導要領への対応は難しく、中学校も対応に苦慮している。引き続き取り組んで欲しい。 ・新大学入試に向けて、引き続き行き届いた教育を生徒にして欲しい。